



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

先日、ノーベル賞を受賞した鈴木先生の若者たちへのメッセージには、まったく共感した。
「日本の若い研究者たちよ。重箱の隅を突くような研究はしないで欲しい。新しい白い紙に、新しい絵を描くような研究をしてもらいたい。」

さすがである。

しかし、このような貴重な意見に果たして耳を傾ける人はどれぐらいいるだろうか？

また、ここから行動に出る事ができる人はどれぐらいいるだろうか？

今の若者たちはこのような意見をどう考えているのだろうか。

いや、若者だけではなく、40代50代のオジサン、オバサンたちはどうだろう。

今さら新しい所に足を踏み入れる事を諦めてはいないか。

もう無理だと最初から決め付けていないだろうか。

誰も全ての人にノーベル賞を目指せとは言っていない。

ただもう少しガムシャラに生きてみてはどうだろう。

人の敷いたレールの上を走る列車で満足するのではなく、新しくレールを敷く側に行ってみては。

日本という国もそうだ。

日本も世界に新しいレールを敷かなくなってしまった。

アメリカや中国、ロシアという乗り物に乗っているだけだ。

今の日本の現状を考えると、この国は弱くなり過ぎた。

物は豊かになっているはずなのに、不景気に不安を持つ大人がほとんど。

そんなに平成の時代は酷いだろうか。

戦国時代や昭和の戦争の真っ只中よりはずっと暮らしやすくなっているはず。

それなのに聞こえてくるのは、愚痴かわがまま。

これでは中国に抜かれても仕方が無い。

そのうち、日本はアフリカにも抜かれるに違いない。

ノーベル賞だけではなく、何事でも日本を代表して世界に認められる事は、並大抵の事ではできない。

毎日、苦しく、厳しい壁が目前に立ちはだかっているだろう。

それでも立ち向かわなければならないのだ。

我々がすんでいる家は日本なんだ。

アメリカに住んでいる訳でもなく、イタリアでもなく、オーストラリアでもないのだ。

地球という大きな海に浮かんでいる日本という名の舟なのだ。

このままではいつか沈んでしまう事が目に見えている。

もう一度、我々は立ち上がらなければならない。

アメリカや中国、ロシアなどの大国に肩を並べて外交のできる国にならなければならないのだ。

そのためには、我々オジサン、オバサンがまだまだノンビリしては駄目だ。

もっと考えよう！

そして、もっと行動しよう！

若者たちが黙っていてもついて来るような大人を目指そうではないか。

一人が二人、二人が三人。

そして、十、百、千と広がれば良い。

一人一人の熱い元気が、必ずこの日本に新しいレールを世界に敷くに違いない。

「駄目で元々。どうせ人生一回だ。俺はやるぞ！」

強い日本。

その日が来る事を信じて、我々は進むしかない！



佐々木